

平成29年度 富山商業高等学校アクションプラン —1—

重点項目	学習活動	
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図ることにより、生徒に意欲をもって授業に取り組ませ、確かな学力を身につけさせることが必要である。</li> </ul>	
達成目標	(結果目標) ①指導力の向上を意識した授業改善	(結果目標) ②学習意欲の向上
	(行動目標) 他の教員の授業を、年間2回以上参観する。生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。	(行動目標) 生徒間で、学び合い教え合いを各自10回以上行う。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業週間(年2回)を定め、その間に他の教員の授業を2回以上参観する。</li> <li>参観者は、互見授業シートを記入し自らの授業改善に資する。</li> <li>授業実施者は、参観者の感想・助言を参考に授業改善に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が、学習に関して、わからないことや他の意見・考えを友達同士で教え合う「生徒学び合い週間」(年2回)を定め、期間中には10回以上行わせる。</li> <li>各期間後に学び合いシートを提出させる。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業を行った教員84%(昨年92%)</li> <li>授業アンケート</li> <li>授業内容を理解する1学期 74%</li> <li>2学期 78%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び合いを行った生徒 99%(昨年92%)</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業については、若手教員、中堅教員、ベテラン教員を問わず、他の先生の授業を参観した。ICT機器の取り組みや主体的・対話的な深い学びを実践する授業もあり、教員間での授業改善の意識の向上につながる取り組みであった。</li> <li>生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関して10教科の必修16科目についてアンケートを実施した。①集中して取り組んだ85%→84% ②内容を理解した74%→78% ③自ら考えた53%→54% ④学び合い、考えを深めた60%→64%⑤興味関心を持った75%→78%⑥レベルが合っている69%→77%</li> <li>生徒の学び合いについては、自らが主体となって学習に向かおうとするきっかけとなるように定期考査や各種検定試験に合わせ、学年との連携を図りながら実施した。学び合いシートは、年度末に1年間にわたる学び合いを通しての感想を報告させた結果、多くの生徒から「学習意欲が向上した。」「教えることで、より理解が深まった。」という感想が寄せられた。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業は、教員43名(講師等を除く51名中)が2回以上行った。</li> <li>生徒の学び合いは、820名(829名中)が10回以上行った。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の互見授業の数値が昨年より減ったことが課題である。また、課題解決力も大切だが、それ以上に課題発見力を身につけることが重要である。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業、生徒の学び合いともに教員の指導力の向上や生徒の学習意欲の向上の良いきっかけになったと思われる。達成度については、互見授業は昨年度より下回り、学び合いはほぼ全校生徒が実施し定着してきている。学習アンケートの結果によれば、授業への取り組みや授業への興味関心、授業内容の理解度は、約8割が向上したと回答したが、自ら考え深い学びにつなげた生徒は約6割であり、より授業改善が必要である。今後は、さらなる教科指導の充実と確かな学力の向上を目指し、各教科において、「何ができるようになるか」を明確化し、知識の理解の質を高め、資質・能力を育む授業への工夫が必要である。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

平成29年度 富山商業高等学校アクションプラン —2—

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と競技力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は運動部17、文化部11の計28部が設置されており、全員の活動制である。</li> <li>・運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度は全国大会出場者が147名（18%）、北信越大会出場者が332名（40%）と昨年度の達成目標を達成できた。</li> </ul>	
達成目標	①部活動の個人目標達成度 (個人目標達成者数÷全校生徒数×100)	②全国大会・北信越大会出場生徒の割合 (大会出場者の延べ人数÷全校生徒数×100)
	60%以上	全国15%以上 北信越40%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間使用の部活動個人目標カードを作る。各年度で目標を立て、達成するための方策、結果、目標が達成できたか。次年度に向けて反省等を記入させ、選手の意識を高める。</li> <li>・部活動の一層の活性化を図るため、各部におけるトレーニング講習会や技術講習会の充実を目指す。特に競技力向上に努める。</li> <li>・ストレス無く部活動を行うために、部活動の環境整備に努める。</li> </ul>	
達成度	<p>1、2年生は検定結果が発表されてから調査したいと思うが、3年生のみの集計は終わっており、結果は「達成できた」、「まあまあ達成できた」の合計の割合は、66.2%で、昨年度の達成度より約10ポイント上昇した。1、2年生の結果を含めても60%を越えると思われる。</p>	<p>1月25日現在 全国大会出場者 155名（18.7%） 目標達成！ 北信越大会出場者 337名（40.7%） 目標達成！</p>
具体的な 取組状況	<p>昨年と同様の取り組みだったが、陸上競技200mで全国優勝や珠算電卓応用計算競技で日本一など全校生徒の励みになるような大活躍があった。</p> <p>個人目標達成度が、昨年度よりも上がっており、それぞれの部活動で少しずつではあるがレベルアップしていると思われる。</p>	
評 価	A	<p>部活動の個人目標達成度が、昨年に比べ上がっている。（昨年度54.2%）</p> <p>それぞれの部活動でがんばった結果だと思う。</p> <p>全国大会、北信越大会に出場した生徒数も多く、両方とも目標達成ができた。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動個人目標達成度の数値で自己評価の低い生徒が多いのは、富山商業が高いレベルのことをしているからと言える。自己肯定感がないと、エネルギーがプラスに繋がりにくいので、先生方はもっと生徒たちのやったことについて評価してやってほしい。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動個人目標カードは、目的意識を明確にして、意識を高める効果があったと思えるので、来年度も実施したい。</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

重点項目	学校生活	
重点課題	「富山商業高校いじめ防止基本方針」の策定といじめに対する意識の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団に溶け込めず、孤立がちな生徒が少なからず見られる。</li> <li>・部活動・学年・学科・出身中学等様々な要素を含みながら、程度の差はあるものの、様々な形態でトラブルが発生している。</li> <li>・悪ふざけやちょっとした悪戯のつもりが人間関係を壊したり、人を傷つけたりすることに気付いていない、または軽く考えている生徒がいる。</li> <li>・ネットパトロールから、生徒の不適切な書き込み等の連絡がある。</li> </ul>	
達成目標	「富山商業高校いじめ防止基本方針」の見直し いじめに関するアンケートで「いじめに関わっていない」と答えた生徒の割合100%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回行われる全校集会（頭髪服装検査）の折にいじめ防止について呼びかける。</li> <li>・各種講話をおこない、身近な事件・事故や事例を知るとともに、ルールやマナーの意識を高め、互いを尊重する気持ちや、いのちを守る態度を身につけることが、いじめの無い学校生活を築くことを理解させる。</li> <li>・各学期末にいじめに関するアンケートを行い、いじめ防止の意識を喚起する。</li> </ul>	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関するアンケートで、いじめに関わったと答えた生徒は1学期1%台、2学期0.4%台に満たなかったが、目標は達成できなかった。</li> <li>・県教委によるいじめ事案対応フローチャートモデルが提示され新たに職員の共通理解を図ることができた。</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2学期、全校生徒にいじめに関するアンケートを行った。結果をもとに、担任・学年を中心に対処を行っている。</li> <li>・生活全般について職員朝礼や全校集会等を通じて生徒に注意喚起を行っている。</li> </ul>	
評 価	C	深刻ないじめ問題は起こっていないと思われるが、誹謗中傷などさまざまな事案が発生・終息を繰り返している。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに対する取り組みは継続的にやっていかなければならない。いじめに対してどう取り組み、どう対処するかが大切で、人権に関する研究及びいじめ事例の蓄積、教員の研修が必要である。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	生徒の規範意識の向上や他人を思いやれる態度の育成を図り、いじめの根絶を目指す。 (さらに生徒への声かけを心がける)	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解を高め、能力に合った進路選択</li> <li>・職業観・勤労観を定着させ、社会状況の変化に対応した進路指導</li> <li>・小論文を系統立て指導し、小論文作成力を高める。</li> <li>・進路指導の組織的・計画的な取り組みを通して、効果的な進路支援策の施行</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観・勤労観に関する意識が希薄な生徒は進路選択が遅れる。</li> <li>・自己理解ができていない生徒は、安易な選択をしてしまう傾向が見られる。</li> <li>・昨今、求人数が増加し、就職希望の生徒は選択幅が広がっているが、自己理解ができていないと、憧れと自己の実力が見合わないままに進路選択を行い、結果に苦慮することになる。</li> </ul>	
達成目標	② 小論文指導受講の達成度	②生徒の進路満足度（卒業時）
	70%以上	98%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教諭と協力して、小論文の力を学年進行で向上させる方策を実施する。</li> <li>・小論文を書くことに抵抗感なく書けることを目指す指導をする。</li> <li>・語彙力向上を目指し、読む時間も確保し、年3回の小論文模試の前に、国語科目の授業の中で小論文の書き方を指導をする。模試業者等に依頼して、外部より講師を招いて小論文講座を実施する。</li> <li>・普段から、『天声人語』等のコラムになじませるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望や就職希望の如何を問わず、自己の将来を主体的に考えさせ、能力適性にあった進路選択を行うよう指導する。</li> <li>・個人面接、ホームルーム、進路説明会を通じて、生徒の志望の実態を把握し、家庭との共通理解を図る。その際生徒・保護者に適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。</li> <li>・進路意識を啓発し、進路実現を目指して目標に向かい努力する生徒に対して、全教員が協力して面接指導や個別学力補充の場を提供する。</li> <li>・進学から就職、就職から進学といった志望変更が安易な形で行われることの無いよう、生徒自身の考えを確立させるため十分に話し合い、保護者との連絡を実施しミスマッチのない進路選択につなげる。</li> </ul>
達成度	100%	98.2%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員に対する小論文講義は国語科の授業担当者が各学期に実施した。外部講師による小論文ガイダンス講座は、3年は7月に実施、1・2年は3月に実施予定である。</li> <li>・指導の結果、2学期の模試で「意見を明確に表現する力」の評価が上昇した生徒が約25%いた。3学期の小論文模試の結果はこれからだが、期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度調査においては、満足74.6%、まあまあ満足23.6%、不満足1.8%という結果から、概ね98.2%が満足しているとした。</li> <li>・小論文指導、面接指導等の個別指導に対しては全教職員で対応してきた。</li> <li>・受験報告書、実際の試験問題等は進路指導室に提出させ、以後の生徒が活用しやすいようにしている。</li> </ul>
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文指導に関しては、指導によって2学期の模試で25%の生徒に成果が見られた。この調子で継続していきたい。</li> <li>・進路満足度は1月調査で目標値となることができた。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内企業から富商生を求める声が多く聞かれる。学校としては送り込むだけでなく、入社後もしっかり働いているのかを見届けてほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路専用のパソコンを稼働させることにより、進路先研究のための情報を入手しやすい環境を整備する。求人票をPDF化することより、生徒が自主的に積極的に自らの進路獲得のために行動ができるように支援する。</li> <li>・小論文指導に関しては、外部模試の評価が上昇する生徒を増加させる。</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

平成29年度 富山商業高等学校アクションプラン —5—

重点項目	学習活動	
重点課題	検定・資格取得の充実	
現 状	<p>&lt;平成28年度 全商主催検定1級3種目合格者数&gt; 81名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3種目 (42名)</li> <li>・ 4種目 (24名)</li> <li>・ 5種目 ( 7名)</li> <li>・ 6種目 ( 4名)</li> <li>・ 7種目 ( 3名)</li> <li>・ 9種目 ( 1名)</li> </ul>	
達成目標	全商主催の検定1級3種目合格者数	
	90名以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検定取得の達成目標をもたせることにより、生徒の学習意欲を喚起する。</li> <li>・ 基礎・基本の着実な定着を図るとともに、生徒の能力を最大限に伸ばすための学習指導体制を充実する。</li> <li>・ 1月に行われる検定については、補習授業を行い、学力の向上を目指す。</li> </ul>	
達成度	<p>&lt;平成29年度 全商主催検定1級3種目合格者数&gt; 74名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3種目 (41名)</li> <li>・ 4種目 (14名)</li> <li>・ 5種目 (12名)</li> <li>・ 6種目 ( 5名)</li> <li>・ 7種目 ( 1名)</li> <li>・ 9種目 ( 1名)</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学時より検定試験取得の有用性を理解させ、上位級への取得意欲を高めさせた。</li> <li>・ 検定試験時期には、特別補習を実施するなど検定対策学習を強化した。</li> <li>・ 1月には7限目補習及び希望者への特別補習を実施した。</li> <li>・ 教師側も、本年度より公開授業を積極的に行い、指導力向上に努めた。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習済み基礎内容(2,3級)の再確認が不足していた。</li> <li>・ 特に、パターン問題は解けるが、出題形式が変わると対応できない生徒が多かった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業以外の資格についても表示してはどうか。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<p>基礎基本の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃から学習済み内容の再確認をさせる機会を設ける。(振り返りながらの学習の深化) 2・3級の範囲を単に既習として扱うのではなく、教科書などで再確認をさせるなど、教師側も工夫した授業を心がける。</li> <li>・ 問題演習に加えて、文章を読み取る力の育成が必要。(問われている本質の理解) 正解率が低い問題に対して重点的に解説・演習を行う。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

重点項目	学習活動	
重点課題	「模擬株式会社 TOMI SHOP」を通して体験学習の充実	
現 状	仕入先研修体験学習や「模擬株式会社TOMI SHOP」の運営を起業家教育や進路学習に役立てている。	
達成目標	①社会人基礎力「3つの能力/12の要素」	②「模擬株式会社 TOMI SHOP」の満足度 (お客様・生徒)
	自己の3階評価 A 30%以上 B 70%以上	満足以上の割合 90%以上 大変満足の割合 60%以上
方 策	<p>(1)「TOMI SHOP特別授業」の改善 「TOMI SHOP特別授業」を実施し、「TOMI SHOP」に向けて必要な知識を生徒に理解させる。授業後にアンケートを実施し、生徒の変化を把握して取り組みに生かす。</p> <p>(2)仕入先研修体験学習 「TOMI SHOP」の協力企業先で研修を行うことにより、商人のあり方を学び、その成果を「TOMI SHOP」の経営に生かす。</p> <p>(3)模擬株式会社「TOMI SHOP」(起業家の育成) ・模擬株式会社を設立し、会社組織で店舗経営や販売活動を行う。 ・「株主総会」において営業報告、決算報告、利益処分を行う。</p> <p>(4)キャリアガイダンスの実施 地元経済団体との連携により、勤労観、職業観を育成し、問題解決能力を育て、地域社会に貢献できる職業人の育成を目指すとともに、キャリア教育の充実を図る。</p>	
達成度	A評価12項目中11項目が30%以上 B評価12項目中12項目が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様 大変満足以上の割合…約75%</li> <li>・生徒 大変満足以上の割合…約87%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素について、生徒に事前・事後に自己評価した。社会で求められている能力について意識し、目的をもって体験学習に取り組むことができた。自ら学ぶ姿勢を育て、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけさせるように、全教員協力のもと取り組んだ。</li> <li>・今年度は昨年度までの自己評価で伸び率の低かった、「課題発見力」を意識させることを重点に統一授業を実施し、行事に取り組む意思統一を図った。</li> <li>・TOMISHOPのクラス担当を従来の担任教諭に加えて増員し、きめ細やかな指導ができるように複数担当制を実施した。</li> <li>・TOMISHOPの準備日に教職員による事前評価を実施し、本番当日に向けて改善をした状態でお客様を迎える準備を実施した。</li> </ul>	
評 価	A	TOMISHOPの事前学習として、全生徒に昨年度、お客様の期待に応えられなかった事例を紹介し、お客様は何を求めて来店されていたのか、どのように対応すべきであったのかを考えさせ、今年度の行事に対する意思統一を図った。その結果、取り組む意識が向上し、多くのお客様からの高評価と生徒の達成感を得た。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え抜く力というレベルが高すぎるのではないかと。いきなり力をつけないので、時間をかけることが大切。最初は良い考えが浮かばなくても、経験を積み、先生方が褒めることを繰り返すことで力はつく。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	富山商業の育てたい生徒像を明確にし、全教員の共通理解のもと、3年間を通して地域社会に貢献できる職業人を育成していきたい。社会人基礎力の自己評価を継続して実施し、さらに課題解決に向けて主体的に考える力を持った人物を育成していきたい。	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

平成29年度 富山商業高等学校アクションプラン —7—

重点項目	特別活動	
重点課題	読書への関心・意欲を高め、読書習慣をつけさせる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～1月までの1ヶ月平均の来館者数は、昨年度は742人で一昨年度は698人であった。雑誌の利用を中心に昼休みの来館者は増えてきている。それを維持するとともに、読書の動機付けとなる様々な工夫が必要である。</li> <li>・昨年度の生徒1人当たりの貸出図書冊数は年度末において2.7冊で一昨年度は2.5冊であった。今年度もさらに増加するよう、より一層の利用を呼びかけていきたい。</li> </ul>	
達成目標	①1ヶ月平均の図書館来館者数(延べ人数)	②生徒1人当たりの貸出図書冊数
	750人以上(4月～1月)	2.5冊以上(4月～1月)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの生徒に図書館を利用してもらえよう、図書館内や図書館前廊下において本のPRや展示方法に工夫を凝らし、図書館に入りたくなるような雰囲気作りに努める。</li> <li>・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望をより多く取り入れ、利用を促進する。</li> <li>・授業で図書館を利用された先生方に協力を得て、調べ学習用の蔵書の充実に努め、図書館の有用性を高める。</li> <li>・来館者の興味・関心に合わせ、おすすめ本の紹介などを積極的に行い、読書の推進を図る。</li> <li>・夏休みや冬休みなどの長期休業期間に本を借りよう、HR等を通して呼びかける。</li> </ul>	
達成度	<p>100%</p> <p>※1ヶ月平均 753人 (1月15日現在)</p>	<p>94%</p> <p>※生徒1人当たり 2.35冊 (1月29日現在)</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や行事、時事に応じた図書館内や図書館前廊下における展示の工夫。</li> <li>・店頭選書(紀伊國屋書店)や校内選書を行い、生徒の要望に即した本の購入。</li> <li>・「図書館だより」や「新着図書」を通しての図書館利用の呼びかけ。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者数は昨年と比べ微増した。今年度は年度はじめての来館者は少なかったが、1学期末から来館者が多くなり、結果的には昨年度並みの来館者となった。</li> <li>・生徒1人当たりの貸出冊数は昨年を下回った。昨年度は3年生の球技大会の時に第一体育館が工事で使用できなかったため、球技大会と図書館利用が抱き合わせで実施された。その関係で当日、3年生のほとんどが本を借りたので貸出冊数が伸びた。その貸出冊数を除けば、昨年度は生徒1人当たり2.19冊なので、実は今年度の方が多い。しかし達成目標の2.5冊には及ばなかった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の仕方を変えてはどうか。興味関心について、来館者数以外の評価方法などを考えると良いのでは。</li> <li>・まったく利用しない生徒にどう働きかけるかを考えなければならないのでは。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者数は増えつつあるが、来館する生徒たちに、いかにして読書の楽しさを知ってもらい、読書意欲に結びつけるか。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校管理下における災害発生状況の調査および事故防止の徹底を図る。</li> <li>・不登校、学校不適応、心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリングの充実を図る。</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や顧問、担任、授業担当者等への注意喚起を行っているが、その趣旨が実際の行動に十分に反映されておらず、比率的には怪我の減少が見られるものの、発生件数自体はそれほど顕著な減少が見られない。</li> <li>・様々な心理的な問題を抱え、不登校や保健室登校となる生徒が後を絶たない。</li> </ul>	
達成目標	①事故発生率の減少	②次年度への繰越し件数0
	9.0%以内（昨年度8.5%：70件）	今年度設定
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止の徹底を図るため、実際の事故の例などを生徒に紹介し、事故の起こりやすい状況等について生徒や職員に注意喚起したい。また、保健だより等を活用し、生徒自身が危険を予知したり、回避したりできるように指導育成する。</li> <li>・不登校、学校不適応、心理的な原因による体調不良等への対応を円滑に行うため、担任や顧問、学年主任、保健厚生部、保護者が連携して問題解決に取り組み、スクールカウンセラーや医師などの専門家の効果的な活用を図りながら、確実な問題の解決にあたる。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 8.0%(66件 1月現在)</li> <li>② 未定(現在5名程度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の発生状況については例年と同じレベルで推移している。</li> <li>・相談件数や不登校の状況についても、例年と同じような傾向を示しており、特に目立った改善は見られないのが実情である。</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月発行している「保健だより」で事故の防止や、心の健康、身体の健康等についてとりあげ、朝の連絡等にも様々な健康問題について注意を呼びかけている。</li> <li>・AEDの実習や薬物や性教育の講話等の機会にも安全や健康について考え、自ら実践できるよう呼びかけている。</li> </ul>	
評 価	C	目立った成果が数字となって現れていないことや、生徒の取り組む姿勢の変化があまり見られないことから、取り組みについて創意工夫が必要である。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で自分の健康を守る生徒を増やすことが大切では、きずバン・ハンカチの常備、健康意識を根付かせる指導が大切だ。生涯を通じて健康意識を育てるにはどうしたら良いのか。意識が変わったことが分かるようなアンケート項目が良いのではないかと。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故発生の傾向を分析し、危険な状況を認知する力を育むような取り組みを考えていきたい。</li> <li>・相談の受け入れ件数の増加を県に働きかけ、カウンセラーの時間配当を増やすとともに、相談に臨む生徒の姿勢や態度にも改善を心がけたい。</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった



重点項目	その他	
重点課題	PTA活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会への出席率は、3学年の進路説明会を同時開催することで50%近くの水準となっているが、今後もより多くの会員に出席してもらいたい。</li> <li>・本校独自のPTA事業として行っているPTA視察研修と食堂利用体験の満足度は90%を超える水準だが、参加者は30名程度と少ない。</li> </ul>	
達成目標	①PTA総会への出席率	②PTA視察研修事業・食堂利用体験の満足度
	50%以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA定期総会の土曜日実施と1・2年生の授業参観・学年別懇談会の同日実施を継続するとともに、3年生は進路説明会を同日実施することで保護者の日期的な負担を軽減する。また、駐車場確保など保護者が参加しやすくなる環境を整える。</li> <li>・PTA視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。また、食堂利用体験についても、事後アンケートを参考に、より満足度を高められる計画とする。</li> <li>・PTA事業について多くの会員の参加を得られるように、行事内容を配布物とメール配信両方で行う。</li> <li>・機会ある毎に情報メール受信の登録を促し、多くの保護者に情報配信できる体制を整える。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会 51.0% (831名中423名参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA視察研修事業参加者アンケート(回答40名) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 非常によかった 26名 65.0%</li> <li>② よかった 12名 30.0%</li> </ul> </li> <li>・PTA食堂利用体験参加者アンケート(回答25名) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 今後も事業継続してほしい 24名 96.0%</li> <li>② 今回限りでいい 0名</li> <li>③ どちらでもいい 1名 4.0%</li> </ul> </li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月上旬の土曜日午前に公開授業、PTA定期総会、学年別懇談会、進路説明会(3年生)を実施する取り組みも定着し、50%近くの出席率を保てるようになってきた。特に3年生は多くの保護者に参加してもらえるようになり、出席率は70%近くに達している。</li> <li>・PTA視察研修事業では視察先の希望調査を3月に1・2年生保護者に対して実施し、希望にそった進学先2校・就職先1社をPTA企画委員で選定、早めに受入交渉を進めた。これに伴い、5月のPTA定期総会で、具体的な事業計画を説明できるようになり、今回の参加者増加につながったと思われる。また、保護者から希望が多い視察研修先での本校卒業生の講話は必ず時間設定してもらうようにした。</li> <li>・食堂利用体験は、事前の企画委員会で、当日提供してもらう定食メニューや日程などについて多くの意見を頂き、それに沿った内容で企画・実施した。</li> </ul>	
評 価	A	・総会の出席率、PTA視察研修事業、PTA食堂利用体験とも目標値に達した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会に出席していないから無関心というわけではない。総会への参加数だけではなく、学校への関心を喚起するような内容を精査できるアンケート項目にすれば良いのではないかと。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の具体的な取り組み内容を引き続き推し進め、現状より落ち込まないようにする。また、保護者の日期的な負担を軽減する取り組みを引き続き行う。</li> <li>・今後も事前・事後のアンケート結果やPTA企画委員の方々の意見も多く取り入れ、より多くの要望を実現できるよう、企画内容を検討していく。</li> <li>・各PTA事業に多くの参加が得られるよう、文書での案内と併せ、メール配信などを用いた積極的なPRを継続していく。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった